

第206回 大阪小児科学会

◇◇ プログラム ◇◇

■ Aセッション(14 : 00~14 : 36)

座長 濱田 悠介 (大阪大学大学院医学系研究科 小児科学)

1. 夜盲で発症したミトコンドリア病の11歳男児例
大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学
大澤純子, 山下加奈子, 保科隆男, 服部妙香, 佐久間悟, 瀬戸俊之, 新宅治夫
2. SGA性低身長症の治療経過中、全サブテロメアFISHにより5p-症候群と診断された1例
大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学
西垣五月, 濱崎考史, 瀬戸俊之, 藤田敬之助, 新宅治夫
3. 一児のみに核黄疸の発症が疑われた早産超低出生体重児の双胎児
大阪医科大学 小児科・新生児科 周産期センター NICU
山岡繁夫, 篠原 潤, 稲富 直, 安井昌子, 長谷川昌史, 荻原 享, 玉井 浩

■ 総 会(14 : 36~14 : 50)

議長 原田 佳明 (協仁会 小松病院)

教育講演(14 : 50~15 : 50)

座長 永井 利三郎 (プール学院大学短期大学)

「気仙沼市本吉地区での経験」

川 島 実

■ Bセッション(15 : 50~16 : 14)

座長 野田 幸弘 (関西医科大学 小児科)

4. 治療忌避のため8年間無治療経過観察された慢性活動性EBウイルス感染症の1例
大阪府立母子保健総合医療センター 血液・腫瘍科¹⁾, 同 検査科²⁾
樋口紘平¹⁾, 五百井 彩¹⁾, 眞弓あずさ¹⁾, 清水真理子¹⁾, 佐藤真穂¹⁾, 澤田明久¹⁾,
安井昌博¹⁾, 竹内 真²⁾, 井上雅美¹⁾
5. 当院で経験したヘリコバクターピロリ陽性の3症例
和泉市立病院 小児科
富田和慶, 岩本裕敬, 澤田 智, 坂東賢治, 村上城子

■ Cセッション(16 : 14~16 : 50)

座長 山本勝輔 (大阪府立母子保健総合医療センター 腎・代謝科)

6. ネフローゼ症候群を疑うほどの全身浮腫を呈したIgA血管炎の1例

大阪医科大学 小児科¹⁾, 第一東和会病院 小児科²⁾

森下文乃¹⁾, 白数明彦¹⁾, 松村英樹¹⁾, 中倉兵庫²⁾, 芦田 明¹⁾, 玉井 浩¹⁾

7. 先天性腎尿路奇形により腹膜透析を導入した乳児の1例

大阪市立総合医療センター 小児総合診療科¹⁾, 済生会中津病院 小児科²⁾

矢崎耕太郎¹⁾, 吉田佳恵子¹⁾, 久富隆太郎¹⁾, 熊谷雄介²⁾, 上田博章¹⁾, 藤丸季可¹⁾

8. クループ様の咳嗽および喘鳴が遷延し、食道重複症と診断した1例

医療法人宝生会PL病院 小児科¹⁾, 大阪府立母子保健総合医療センター 小児外科²⁾,

大阪市立大学医学部附属病院 小児科³⁾

秦 直樹¹⁾, 藤田賢司³⁾, 寺井沙織¹⁾, 松井勝敏¹⁾, 山本菜穂¹⁾, 花岡信太郎¹⁾,

森田こころ¹⁾, 若原良平¹⁾, 今村卓司¹⁾, 西村 章¹⁾, 野村元成²⁾, 白井規朗²⁾

• A~Cセッションは講演各6分, 討論各6分とし, 教育講演50分, 質疑応答10分とします。

第2回「低線量被ばくを考えるセミナー」 —福島の小児甲状腺がん発生に関する1考察—

日時: 6月27日(土)

大阪小児科学会(大阪市大医学部附属病院5階講堂)終了後開催。学会終了後、同じ会場で引き続き開催いたします。講演と質疑で約2時間を予定。

講師: 吉田 均 先生(石川県能美市 よしだ小児科クリニック 院長)

講師紹介: 吉田先生は、放射線被ばくの人体影響に関する造詣が深く、チェルノブイリ原発事故後の健康影響や医療モニタリングなどにも精通され、低線量被曝と健康被害を考える上で、我が国の小児科医の第一人者でおられます。講演会で活躍され、著書や訳書も多数書かれています。北陸地方の小児科医と交流を深められ、原発の危険から子どもを守る北陸医師の会・事務局長を務めておられます。北陸医師の会は会員五十五名で内日本小児科学会会員も多数参加されています。多くの人々にご参加をいただきながら、小児医療を担うものとして問題を深め、考えていきたいと思っています。ご参加いただけることを心より願っています。

主催: 大阪小児科学会地域医療委員会